



Serve to Change Lives

ガバナー月信

国際ロータリー第2550地区

2021-2022年度 4月号



SLと染井吉野・菜の花(真岡鉄道・北真岡駅周辺) (真岡市)

SLは、福島県川俣町で静態保存されていたものを平成3年に譲り受け、平成6年3月に真岡鉄道で運行を開始。今も現役で活躍する、日本で唯一のC12形です(真岡鉄道公式ホームページから引用)。SLと染井吉野・菜の花のコラボレーションをお楽しみください。まさに絶景です。

Contents

ロータリーの目的・四つのテスト	2	コーディネーターニュース	10
ガバナーメッセージ	3	2021-2022 地区内主要行事	10
米山記念奨学会修了式歓送会	4	新入会員紹介	11
特集 各クラブの奉仕事業	6	物故会員	11
2月会員数報告	9	国際ロータリーからの声明文	12
お知らせ	9		



ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。
具体的には、次の事項を奨励することにある。

- 第1** 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること
- 第2** 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること
- 第3** ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること
- 第4** 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1 真実かどうか
- 2 みんなに公平か
- 3 好意と友情を深めるか
- 4 みんなのためになるかどうか



「母子の健康」月間に寄せて

国際ロータリー第2550地区 2021-22年度ガバナー

いし だ じゅん いち
石 田 順 一 (真岡ロータリークラブ)

桜の花もほころんでまいりました。皆様にはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。オミクロン株による感染者が減らない中、ロシアのウクライナへの侵攻という主権を無視した行動が始まり、国際ロータリーが声明文を発出する事態になっております。一日も早い終息を願うばかりです。

4月となりましたが、進学、入社で新たな年度の始まりを実感します。これから新しい立場で、それぞれ希望に胸を膨らまされる光景が目に見えます。皆様の職場でもリクルート姿の初々しい若者の入社もあった事と思います。

3月13日、会長エレクト研修セミナー(PETS)が行われました。次年度に向けての準備で大変お忙しいこととご推察申し上げます。

さて、4月は「母子の健康月間」です。

2014年10月RI理事会は、4月を重点分野:「母子の健康月間」としました。5歳未満の幼児の死亡率と罹患率の削減、妊婦の死亡率と罹患率の削減、より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供、保険従事者を対象とした研修、保険ケアの提供、母子の健康に関連した仕事に従事することを旨とする専門職業人のための奨学金の支援を強調する月間です。毎年、5歳未満で命を落とす子どもは、世界で推定590万人。その原因は、栄養失調、適切な医療や衛生設備の欠如など、どれも予防が可能なものばかりです。予防可能な原因で母と子どもが命を落とすことなどあってはならないと私たちロータリー会員は考えます。すべての母子が質の高い医療を受けられるよう、そして、出産で命を落とす母親がいなくなり、子どもがすくすくと成長できるように、私たちは支援活動を行っています。ロータリーは、母子の健康を改善し、5歳未満の幼児の死亡率を減らすための活動と研修を支援します。この分野のプロジェクトは、医療サービスへのアクセスの改善および拡充、医療機器の提供、および医療従事者の研修によって、医療システム3を強化します。



さらに、ロータリー財団は、この重点分野の目的と目標を以下のとおり掲げ、母子の健康を改善するためのロータリアンの活動を支援しています。

【母子の健康月間の重点目標】

1. 新生児や赤ちゃんの死亡率の削減。
2. 5歳未満の幼児の死亡率と罹患率の削減。
3. 妊婦の死亡率と罹患率の削減。
4. 母子に対する基本的な医療サービス、医療従事者・保健従事者の研修、および医療提供者への支援。



石田ガバナー メッセージ

【活動】

5. 母子の健康に関連した仕事で活躍していくことを 目指す専門職業人のための大学院レベルの奨学金支援。

- ・ **安全な出産** 清潔な出産キットの配布、安全な出産方法に関する保健従事者の研修など、妊婦が安全な環境で出産できるよう支援しています。
- ・ **持続可能なプログラム** 適切な研修を受けた医者、看護師、助産師、医療従事者によるケアをすべて女性が受けられるよう支援しています。
- ・ **幼い命を救う医療支援** 日本とブラジルのクラブがロータリーの補助金を利用して、新生児の命を救う機器を病院に提供しました。

当地区に置いて未だコロナ禍の中終息時期も見えず、ワクチンが行き渡る前に「変異種」の感染者が増加しています。正しく恐れる事が大事ですが、家庭内感染も多い中、親御さんも子供が感染しないか神経を遣われていると思います。太陽の下で思いっきり運動する事も制限され、ストレスを抱えて神経を病むお子さんも居られます。小さなお子さんがマスクをしているのを見るのは痛々しい限りです。このような厄災を克服出来る事を切に願うばかりです。

私は口に食する物には気を遣って子育てしました。塩や砂糖をあまり使わず、無添加の物、有機野菜などです。でもそれは、贅沢な事なのです。毎日、今晚は何にしようかと迷います。世界には、今日どうやって食べるものを調達しようか？ ひもじい思いをして眠りにつく子供達。貧しい国の事でなく、日本でもお腹いっぱい食べられない子供の貧困が増えてきていて心配しています。2550地区でも「子供食堂」を支援されているクラブは多いです。まともに医療を受けられない子供達もいるようです。

ロータリークラブは世界で母子の健康を改善して質の良い医療を受けられるよう支援していきましょう。自分の子や孫の幸せを願うように。

米山記念奨学会修了式歓送会



国際ロータリー第2550地区2021学年度 米山記念奨学会修了式歓送会

国際ロータリー2550地区米山記念奨学会
委員長 (宇都宮陽北RC)

長 正 英

2022年2月27日(日)宇都宮市ホテルニューイタヤにおきまして修了式を開催しました。

2年前までは、修了生、世話クラブカウンセラー、並びにサブ世話クラブ代表、大学の指導教官、そして学友の参加をいただき、修了式の後、飲食しながらの歓送会を開催しておりました。本年は昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響で、修了生と世話クラブカウンセラーの方のみ会場に出向いていただき、サブ世話クラブ、指導教官、学友には、Zoom参加の形で開催となりました。

会場風景を撮影するカメラ担当、パソコン担当を配置し米山委員会全員でそしてホテル側も密にならぬように配慮しての開催になりました。石田順一ガバナー、佐貫直道ガバナーエレクト、羽石光臣米山記念奨学会評議員、栃木秀磨米山記念奨学会理事並びに地区米山部門カウンセラー、鄭仁淑栃木米山学友会会長、修了生12名とカウンセラーの方々に出席していただきました。

まず、奨学生に修了証、カウンセラーに感謝状が、ガバナーより贈呈されました。

米山記念奨学会修了式歓送会

修了生からは、奨学金をいただき学生生活がいかに充実していたか、また卒業に向けて今後の進路などの報告、さらにカウンセラーの方々からも温かいお言葉をいただきました。またZoomにて参加していただいた指導教官の先生やサブ世話クラブ代表の方、そして米山学友からも、心のこもった、贈るお言葉をいただき感動の中、終了いたしました。

一昨年よりのコロナ禍により、例会中止など様々な活動が制限されての奨学生生活でしたが、卒業してからは米山学友としての本来の活動であり、末永くクラブ、カウンセラーとつながり続け、世界平和に寄与してもらいたいと願いました。

感染を避けて、このような形の開催になりましたが、来年は、全員参加での開催ができることを望みます。

一年あるいは二年間の短い期間でしたが、修了生は地区の皆様の温かいご支援ご鞭撻に感謝してそれぞれの道へ巣立っていきました。今後とも米山記念奨学会に対し、熱いご支援をお願いしご報告とさせていただきます。



特集記事を掲載するにあたり

月信第9号まで、ガバナー公式訪問の記事とともに各クラブの奉仕事業を報告いただき、各クラブの多くの特色ある奉仕事業を報告していただきました。事業の詳細を知りたいということで特集記事を掲載することにしました。

今般、社会的課題である「貧困」をキーワードとした「子供食堂への支援」、「施設への支援」、「エコキャップ・使用済切手の回収」等の特色ある奉仕事業を取り上げてみました。他クラブの参考になるものと思います。

(月信担当 真岡ロータリークラブ 市村忠男)

「宮っこ元気食堂への支援事業報告」

宇都宮南ロータリークラブ 子ども食堂委員会
委員長 横尾 憲一

「始めた経緯」

2年前にガバナー方針が子ども食堂の支援を掲げたとき、当クラブの関口社会奉仕委員長が当時の藤島会長に掛け合い、子ども食堂支援を提案したところ、会員企業に相談することになりました。その会員企業はボランティアネットワークに出向き日々輝学園高宇都宮キャンパス長さんと知り合い意気投合し、まちなかで子ども食堂を開くことになりました。全国的にも子ども食堂が話題になっておりwebサイト「とちぎ子ども食堂ひろば」をご覧くださいますと、県内で26の子ども食堂が開催されております。立ち上げの時に必要な予算も色々な補助金があり、国、都道府県、市町村の補助金、企業の補助金等があります。補助金で冷蔵庫や倉庫、キッチンカーまで購入できた子ども食堂もあるそうです。理想的には、小学校のエリアに一つあるのが良いとされています。子どもが歩いて行ける感じでしょうか。

当ロータリークラブが応援している子ども食堂は、「宮っこ元気食堂」と名付けられました。何故かと申しますと、子ども食堂に対するネガティブな意見もあります。例えば子供達が学校で、あの子は子ども食堂に行っている貧しい子だと陰で言われてしまうことがあります。その一方で本当に貧しい子どもは世間体を気にして子ども食堂にいかないというのもあります。そういったネガティブなイメージを払拭してポジティブに元気でいましょうという考えから名付けられました。

「宮っこ元気食堂」ではまず協力企業から建物物件の手配、水回りの工事、冷蔵庫の提供をしていただきました。宇都宮南ロータリークラブが備品を提供いたしまして、メンバーでペンキ塗りや掃除をし、なにかあったときのことを考えて賠償責任保険に加入し、昨年度の5月中野会長のときから開始されました。

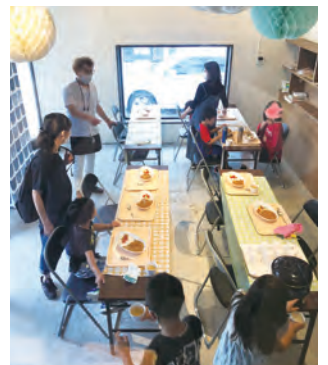
「活動内容」

活動は第2、第4月曜日、場所はまちなか、松が峰教会近く、宮園町の「宮っこ元気食堂」にて、日々輝学園、地域のボランティアの協力、宇都宮南ロータリークラブの会員企業、子ども食堂委員会との連携のもとに行われます。

食事は協力企業により提供していただいたケータリング方式の温かいものを子供達にだしておりましたが、まん延防止等重点措置ではお弁当方式になりました。近所のヤクルトさん、東武デパートのパン屋さんボンパドウルさんも商品を提供していただき、子供達のお土産になっています。様々な方々から協力もうけておりましてJA全農とちぎ様から昨年9月に県産米240キロのお米を頂きました。コロナが終息すれば食堂にて調理も計画しています。フードロス解消する考えもありますが、生鮮食品や調理済みの食品は難しく、日持ちする食材を確保したいところです。

「宮っこ元気食堂」では2階がイベントスペースになっておりまして、イベント、学習支援等を行っています。ハロウィンやクリスマスには演奏会や合唱、ボランティアの方々やロータリアンによる学習支援等は子供達も本当に喜んでいました。

課題としては本当に子ども食堂を必要としている子どもに来ていただくことです。我が国の殺人事件の半数以上は身内、家庭内で起きており子供の犠牲も少なくありません。児童相談所が対応した児童虐待件数が年々増加しています。地域のボランティアには民生委員の方もいらっしゃる、地域のことは地域のボランティアの方々が一番よく知っていますので連携して活動したいと思います。困っている子どものお腹と心をいっぱいにできたらと思います。



「寺子屋・こども食堂支援事業報告」

宇都宮北ロータリークラブ 奉仕活動プロジェクト委員会
担当理事 田村 晃

1. 寺子屋

将来を担う子どもたちに日本の伝統文化や地域に伝わるモノづくりを体験してもらうことで、日本の優れた技術やモノづくりの楽しさを次世代に伝承していくことを目的に実施しています。

これまでの活動の中には、京都に伝わる「草木染め」や宇都宮市の「ふくべ細工」、小山市の「間々田ひも細工」等、伝統工芸士を講師として招き、多くの子どもたちにモノづくりの楽しさを体験してもらう機会を提供してきました。基本的に参加者負担金はいりませんが、ニコニコボックスで集まった資金を元に、講師への謝礼、材料費、場所代などの経費すべてをクラブで負担しています。

活動開始当初は、クラブ会員のご子息や知り合いを中心に参加者を募っていましたが、地域に住む多くの子どもたちにも体験してほしいという願いから、小学校やスポーツクラブ、学童保育などに声を掛け、子どもたちが参加しやすい場所を会場に選定してきました。

参加した子どもたちの中には、「寺子屋」で製作した作品を夏休みの宿題や文化祭の展示品として学校に提出できるなどとして「来年も参加したい」、「次はいつやるの?」という声があがったり、小さな子どもの引率で参加した保護者が本気になって製作に取り組む姿が見られたりと、地域の皆さんからも好評を得ています。社会奉仕活動として実施している事業ですが、同時に地域のコミュニティづくりにも貢献していると感じています。



2. 夕張市「子ども食堂支援」

クラブ会員の親戚が北海道の夕張市役所に勤めていたことが縁で、財政破綻した夕張市の現状について2019年に卓話で話を聴かせていただきました。その際に、夕張市で運営している子ども食堂を支援するために“ふるさと納税”をしてほしいという依頼があり、何人かの有志が個人的に協力をしました。

夕張市では、子ども食堂の運営が十分に行えるだけの予算は付与されず、寄付金や地元農家からの食材の提供に頼っている部分が多いことをその後の交流で知りました。子ども食堂の開催日には、地元の高校生やおばあさんたちがボランティアで食事の準備をしています。場所の提供や食事の段取りは夕張市役所が担っています。市は財政再建の目途が立たず、担当者の派遣ができなくなる可能性があることから、次年度も引続き子ども食堂が存続できるかどうかは分からない状況です。

月に1～2回開催されている夕張市の子ども食堂は、炭鉱夫たちが住んでいた長屋の一部分を改築した部屋で開催されており、参加費だけでは調理に使う電気代やガス代を支払うことが難しく、冬は食べるものも底をついてしまうそうです。1回の開催につき50人近くの子供たちが利用しており、雪の中を何キロも歩いてきても食べるものが無いという日がしばしばあると聞きました。ちなみに、夕張市にロータリークラブはありません。



当初、この子ども食堂に通う子どもたちに生きる希望を与えるにはどうしたら良いかを考え、ベーカリー（パン焼き機）を贈ることで、食事を作る楽しみや就業体験など自立支援に活用いただけないかという想いに至りました。しかし、子ども食堂にはパン焼き機を使うほどの電力（アンペア）も無く、「月に1～2回程度の利用では機材が無駄になるのではないか」、また「調理士免許のない人たちに調理させる

のは衛生上の問題があるのではないか」と、クラブ会員からの指摘がありました。そこで、旧夕張小学校跡地で障がい者の自立支援を目的に食堂を営んでいる団体にベーカリー機材を寄贈することによって、日頃はこの施設で障がい者の就業や自立支援に機材を活用してもらい、子ども食堂の開催日には、この施設からパンを提供してもらうことで、子ども食堂の存続を支援する事にしました。また、パンの焼き方などの運用については、当クラブだけでは支援が難しいことから、夕張市から車で1時間ほどの北広島市にある北広島ロータリークラブに「パン焼き体験会の実施」など継続的な運用支援をお願いし、快諾を得ることができました。

地区を越えて奉仕活動をする事に対し、「地区内の子ども食堂を支援するべきではないか」、「飛行機代をかけて往復するだけのお金があれば、他に奉仕できることがたくさんあるのではないかなど、クラブ内でも意見がありました。しかし、見て見ぬ振りができない状況であることを説明し、理解を得ることができました。

その後も、子どもたちが進学する時期に文房具を寄贈するなどの支援を続けています。2021-22年度は正月に「餅つき大会」が実施できるように、もち米を寄付させていただきました。貧困や差別の無い世界が訪れる日を願いながら・・・

「お宝☆食堂支援事業報告」

宇都宮陽東ロータリークラブ
会長 長谷川 晃

「お宝☆食堂への集配送車両支援・子供たちの健全な成長を育むプロジェクト」

コロナ禍の下、貧困家庭の増加に比例して子供に対するネグレクト等の虐待件数の増加も報じられています。

我々の社会奉仕活動を通して何か援助できる事はないか、リサーチを続けてきました。

その過程で、一般社団法人「発元気プロジェクト」社様運営の『お宝☆食堂』が企業や個人から支援される食材等を子ども食堂へ配送をするボランティア活動をしている事、しかし配送に適した貨物用車両が持てずに個人の乗用車で代用している事、等も知りました。

各部門と慎重に協議を重ね、このボランティア活動を援助すべく軽ワゴン車を寄贈する事と致しました。目的は「子ども食堂の存在」及び「子育ての重要性」を地域社会に強くアピールする事で、その広告を施した車両を配送のみならず、同社が運営する「歌う海賊団」のイベントにも登場させ、軽食やチラシなどを配布して「児童虐待防止」などを広く強く訴える事により、子供たちの健全な成長を育む社会の意識改革を目指すものであります。

2021年11月7日うつのみやろまんちっく村で行われた「歌う海賊団」のイベントに於いて会員とその家族30名・観客120名の見守る中、車両贈呈式を執り行いました。

その模様は下野新聞にも掲載されましてロータリークラブの活動が広く世の中に知れるものとなりましたので、この日をRI会長の推奨する「ロータリー奉仕デー」と致しました。

この活動には地区補助金を利用させて頂き、130万円の予算で計画いたしましたが地区補助金額が予定より少なく、思案していたところ、ありがたいことに1人の会員が不足分をスマイルすると申し出て下さり、無事プロジェクトを遂行することができました。

当クラブでは、2019年度から「子供の貧困」に対する支援をさせて頂いており、宇都宮中央市場内の会員企業から毎週約250キロの野菜や果物を「宇都宮市こどもの居場所」様にお届けし現在までに約25トンの食材を提供させていただいております。

今後も、定期的に食材等を会員から募集し、発元気プロジェクト様に多くの「子ども食堂」に届けていただく予定をしております。



「使用済切手収集事業報告」

栃木南ロータリークラブ
会 長 神山 美恵子

古切手収集活動は、2012年から10年も続いた活動でした。私が社会奉仕委員会を担当することになり、何が出来るか福祉協議会に伺い見つけた活動です。古切手を分類、整理し、しおりやストラップ等のグッズに生まれ変わり、福祉のお店やバザーなどで販売し、知的ハンディキャップ問題の社会啓発資金となる、そんな活動でした。

この活動は、過日、栃木市社会福祉協議会にお届けした分で最後になりました。生まれ変わったグッズは、外国人観光客のお土産に売っていましたが、コロナ禍で外国人観光客が激減し、販売が望めなくなった、郵送料もかかる等の事情で栃木市社会福祉協議会が事業の中止を決めたと思われます。とても残念です!!

お知らせ

「ロータリーの友」4月号の記事中、現在の社会的課題である「生理の貧困」や取得し難い「男性の育児」への取り組みをしているクラブの事業が掲載されています。これら以外にも興味深い記事が多く掲載されていますので、是非、ご一読下さい。

(月信担当者より)

2月会員数報告

	クラブ名	例会数	会 員 数									40歳未満
			7月1日	今月	入会	退会	通算増	通算減	増減	内女性員		
第1グループ	大 田 原	3	29	27	0	0	1	3	-2	1	0	
	黒 磯	2	36	36	0	1	1	1	0	2	1	
	西 那 須 野	2	47	47	0	0	1	1	0	2	0	
	黒 羽	1	7	7	0	0	0	0	0	0	0	
	大 田 原 中 央	0	24	24	0	0	0	0	0	1	2	
第2グループ	烏 山	0	17	16	0	0	0	1	-1	2	0	
	氏 家	0	24	23	0	0	0	1	-1	2	0	
	矢 板	0	10	10	0	0	0	0	0	1	0	
	馬 頭 小 川	0	21	21	0	0	0	0	0	0	0	
	高 根 沢	0	15	14	0	0	0	1	-1	0	0	
第3グループA	宇 都 宮	4	101	106	0	1	7	2	5	3	1	
	宇 都 宮 西	0	75	74	0	0	1	2	-1	0	1	
	宇 都 宮 北	0	43	42	0	0	1	2	-1	0	0	
	宇 都 宮 90	1	46	46	0	0	2	2	0	6	3	
	(宇都宮90結・衛星)	1	6	5	0	0	0	1	-1	3	2	
	宇 都 宮 陽 北	2	46	47	0	0	1	0	1	9	5	
第3グループB	宇 都 宮 東	4	112	116	2	0	8	4	4	0	5	
	宇 都 宮 南	0	54	54	0	0	2	2	0	6	1	
	宇 都 宮 陽 東	1	49	49	0	0	1	1	0	8	1	
	宇 都 宮 陽 南	0	24	24	0	0	1	1	0	7	4	
	宇 都 宮 さつき	1	25	27	0	0	2	0	2	4	4	
第4グループ	真 岡	0	57	59	0	0	2	0	2	0	0	
	益 子	0	28	29	0	0	1	0	1	2	1	
	真 岡 西	0	35	38	0	0	4	1	3	5	0	
	し も つ け	1	20	19	0	0	1	2	-1	3	1	

	クラブ名	例会数	会 員 数								
			7月1日	今月	入会	退会	通算増	通算減	増減	内女性員	40歳未満
第5グループ	小 山 山	2	22	22	0	0	3	3	0	1	0
	小 山 南	0	15	14	0	0	0	1	-1	2	0
	小 山 東	0	21	21	0	0	0	0	0	0	0
	小 山 北	0	24	23	0	0	0	1	-1	0	4
	小 山 中 央	0	24	24	0	0	0	0	0	2	0
第6グループ	栃 木 木	3	46	48	0	0	4	2	2	5	0
	栃 木 西	3	34	33	0	0	0	1	-1	1	0
	岩 舟	1	11	10	0	0	0	1	-1	0	0
	壬 生	0	20	20	0	0	0	0	0	2	0
	栃 木 南	0	36	37	0	0	1	0	1	7	1
第7グループ	日 光	1	21	21	0	0	0	0	0	4	0
	鹿 沼	3	62	60	0	0	0	2	-2	2	4
	今 市	2	41	42	0	0	2	1	1	1	0
	鹿 沼 東	0	37	37	0	0	0	0	0	5	0
	鹿 沼 中 央	0	17	17	0	0	0	0	0	2	0
第8グループ	今 市 き ぬ	0	27	27	0	1	2	2	0	0	0
	足 利	1	21	23	3	0	3	1	2	0	1
	足 利 東	2	34	34	0	1	1	1	0	4	0
	足 利 西	1	11	11	0	0	0	0	0	1	0
	足 利 わ た ら せ	0	35	35	0	0	0	0	0	0	0
第9グループ	佐 野	2	55	56	0	0	1	0	1	0	0
	葛 生	0	39	35	0	0	2	6	-4	0	6
	田 沼	2	43	44	1	0	1	0	1	0	0
	佐 野 東	0	21	21	0	0	1	1	0	2	0
	4 8 R C		1668	1675	6	4	58	51	7	108	48

(メークアップは同じ年度内に行うことができるようになった為、地区では各クラブごとの出席率は掲載いたしません。)



年度終盤に向けての、目標(特に会員増強)の進捗状況が気になる時期となりました。仮に、現状、厳しくても、まだまだ、3か月あります。残された期間、どう、行動するのか？やれることは何なのか？ソフトバンクの孫正義さん風に「脳みそがちぎれる」位考えて、地区チームがベクトルを合わせ、スクラム組んで行動に移して行きましょう！！春爛漫です。スプリングに因んで、心弾むような、ワクワク感満載の第四四半期を祈念しています。

ロータリー日本100年史の100人のロータリアン、お読みになりましたでしょうか？ロータリアンの中のロータリアンともいえるロータリアンのお人となり、ロータリーに対する情熱、諸々のエピソードに触れ、これらの先人やそれぞれの地域、クラブでも、ロータリーを愛し活動された先人たちの歴史があって、私たちが、今、ロータリーを思う存分享受できる環境があるのだと感謝の気持ちで胸が熱くなってきました。日本の100人以外にも、ノーベル賞受賞者、各国財界人・文化人、35代ケネディ米大統領を含む多くの各国首脳など、一度は、お名前を聞いた方々もお出でなのは、皆さんご承知の通りです。正にロータリーは、人材の宝庫だとわかります。そんな方々と、例会で接点を持てたら、どんな会話をするのか。どんなロータリー談をお聞かせいただけるのか。などと考えてしまいました。現実の接点の中でも、尊敬してやまない素晴らしいロータリアンがたくさんお出でです。そんな皆様と同じ空間と時間を共有して交流や意見交換ができ、自己成長に繋げられるのもロータリークラブの大きな魅力です。自己成長から事業、業界の向上へ、ひいては社会の発展へと。それも、クラブ、地域、地区、国を超えての接点です。胸襟を開いて、自ら行動すると大きなチャンス、気づき、学びがあります。様々な機会を捉えて、交流しないのは勿体ないし、将来の行くべき道と目指すべき人とモデリングしないのは勿体ないと素直に思うと同時に、これらの方々や接点からの交流はロータリークラブでの宝物だと感じています。そんな魅力を楽しんでいる私たちが、それぞれが感じるロータリーの魅力をそれぞれのことばで、熱く、どんな環境であれ、他人任せにしないで数多の方々にもっともっと熱心に話していければ、いや、話さないといけない！と感じています。

さて、国立社会保障・人口問題研究所による2045年の推計人口を見ると、

全国 2015年 127,094,745人 2045年 106,421,185人 (83.7%)

秋田県 2015年 1,023,119人 2045年 601,649人 (58.8%)最大減少県

地方においては、人と同じく、本社の県外流出が起きているとの話も聞きます。人口が減るということは、入会対象者の数にも、企業数にも大きな影響が出ると容易に想像できます。今、外的環境がコロナで厳しいのですが、今後、コロナが収束しても、人口問題、後継者問題、企業数問題で、私たちに更なる厳しさが襲ってきます。これからの外的環境はいつか戻るではなく、厳しくなる一方と退路を断って、今まで以上に皆で、もっともっと真剣に増強に向き合うそんな時だとこのコロナが教えてくれたのかも知れません。

国際協議会でジェニファー・ジョーンズRI会長エレクトより2022-23年度RIテーマ「イマジン ロータリー」が発表され、次年度の動きも活発化して、現・次年度とがリレーゾーンに入ってきました。今年度のソフトランディングでしょうか。しかし、トップスピードでのバトンリレーが理想です。

さあ、年度末まで良いイメージをしながら、勿論「目標達成」のシーンをはっきりとビジュアライズして、目標達成の為に、それぞれが感じるロータリーの魅力を、「ロータリークラブにいて、素晴らしい経験を、素晴らしい仲間を、素晴らしい思い出を、素晴らしい学びを 得たこと」 そんなロータリーの魅力を是非、ご自身のことばで熱く数多の皆さまに、また、新会員へも語りましょう。

増強は、高邁なロータリー思想の継承と私たちが享受している素晴らしい環境を次世代に生成発展させ伝え残す最も大切な基本中の基本だと考えます。

「やらなかったのか？物理的にできなかったのか？」自問自答しながら。さあ行動だ！

第1地域 ロータリーコーディネーター補佐 石黒 秀司(郡山RC)

2021-2022 地区内主要行事

月	日	曜日	行 事	開催方式	場 所	担 当
4	10	日	22-23年度派遣学生 オリエンテーション		ホテルニューイタヤ	地区青少年交換委員会
4	10	日	米山新奨学生・カウンセラー対象オリエンテーション			地区米山記念奨学会委員会
4	19	火	第5回ゴルフ選手権大会	延期		
5	8	日	2022-23年度 地区研修・協議会		作新学院大学	ホスト:宇都宮陽東RC
5	29	日	幹事エレクト研修セミナー(SETS)		作新学院大学	ホスト:宇都宮陽東RC
6	5	日	第1回受入ホストクラブ研修会		ホテルニューイタヤ	地区青少年交換委員会
6	12	日	高校生RYLAセミナー			地区RYLA委員会
6	19	日	米山第1回地区米山委員会・奨学生卓話研修会			地区米山記念奨学会委員会



就任前にエバンストンで研修がありました。財団のセッションは当然ですが、同行したRC、RPICと共に毎日合同セッションがありました。即ち国際ロータリーは財団と共にチームでロータリーを推進することを目指していることに、6月末の任期終了を前に強く領いています。今日は財団に拘った5年余りを三つの質問形式でお答えする事に致します。

＜第1の間＞：「ロータリー財団と申しますと『寄付ですか』と返ってきます。」何故そんなイメージが出来上がったのでしょうか。

＜私の答え＞：ロータリー財団は、より良い世界を築こうというビジョンを共有する財団支援者の方々からの自発的な寄付のみによって支えられています。この「自発的な寄付のみ」という部分について、「積極的に」とは書いていないから自分から特別な感情が生まれない限りは寄付をしないでも大丈夫だと考える人が、我が日本には多いことがわかりました。そのため、寄付をお願いすると「また寄付の話だ」と感じる会員が多いような印象がありました。

＜第2の間＞：PHS（ポール・ハリス・ソサエティー）に入会するにはどうするの。

＜私の答え＞：My ROTARYから簡単に入会できます。一つアドバイスですが、多くのPHS会員が、次年度以降の寄付を忘れてしまうことがあります。そこで私も忘れ易いので自動定期寄付を利用しています。この場合、日本円での寄付になりますので毎月変わるロータリーレートにご注意下さい。そのロータリー年度に該当の寄付が1,000ドル以上であれば良いのです。この自動定期寄付は（毎年・毎四半期・毎月）と自由に設定できます。ユニセフのマンスリーサポートは毎日100円からでした。PHSは毎日300円程度で「世界で良いことをしよう」と始められたロータリー財団を通じて、世界各地でサポートを待ち望んでいる人々への支援が出来るのです。

＜第3の間＞：ファンドレイジング（寄付推進）は何故難しいのか。

＜私の答え＞：例えば、年次基金（シェア）への寄付は地区の3年後の活動資金になるので、少ないと3年後の財源が少なくなります。地区の活動を十分に支えるためにも寄付推進は大切なことですが、クラブにとっては地区の資金の状況を直接実感することがあまり多くなく、この辺のバランスを取る重要性を感じた2年9ヶ月でした。補助金活動やDDFの寄贈など、地区から会員のみならずへ情報を伝える際に、さらにわかりやすい伝達を心がけていただくことも、寄付推進の成功につながる一つと思います。

最後に毎年、日本の「年次基金寄付ゼロクラブ0」を達成し、継続できましたことを心から感謝御礼申し上げます。今年度も残すところ3ヶ月と少しです。今年もお願いします。

4月23～24日PHS認証式が札幌市で開催されます。札幌でお会いしましょう。

第1地域 RRFC 羽部 大仁（札幌南RC）

新入会員紹介



谷田部 勝寛
宇都宮東RC
2022年2月22日入会
ジブラルタ生命保険株式会社

頂いたご縁に感謝しております。今後、ご指導宜しくお願い致します。



木下 仁志
宇都宮東RC
2022年2月22日入会
アートナイン株式会社
常務執行役員

会員の皆様、宜しくお願い致します。



高橋 健一
宇都宮南RC
2022年3月9日入会
株式会社日本旅行
宇都宮支店 支店長

前任地で栃木RCに5年間お世話になりました。宇都宮南RCでも頑張ります。



高畑 健一
栃木西RC
2022年3月1日入会
サンリースピッツ株式会社
あずさの森工場工場長

よろしくお願いします。

物故会員

訃報
ご冥福を
お祈りいたします



いそがや まさとく
磯ヶ谷 正徳
西那須野RC
2022年2月11日逝去（享年63歳）
1990年1月9日入会

ロータリー歴
2007—2008年度 第37代会長

財団、米山記念奨学会などの寄付歴
財団 ポール・ハリス・フェロー 2回
米山功労者 4回

「ウクライナ情勢に関する国際ロータリーからの声明文」

「ウクライナと世界の人びとにとって、痛ましい悲惨な状況となっています。ロータリーは、ウクライナにおける状況悪化と、人命の喪失および人道的苦難が深刻化していることを深く懸念しています。ウクライナに対する軍事行動が続けば、地域の荒廃を招くだけでなく、欧州と世界にも悲惨な結果が広がる恐れがあります。

世界最大の人道支援団体の一つとして、ロータリーは「平和」を世界的使命の礎としてきました。

私たちは、国際社会とともに即座の停戦、ロシア軍の撤退、および対話を通じた対立解決のための外交努力の再開を求めます。

過去10年間、ウクライナ、ロシア、および近隣諸国のロータリークラブは、国の違いを超えて、親善を推進し、戦争や暴力の被害者への支援を先導する平和構築プロジェクトに積極的に取り組んできました。

私たちは今、この悲劇的な出来事に直面しているウクライナのロータリー会員やひとびとのために祈ります。国際ロータリーは、救援物資や支援を提供し、ウクライナ地域に平和をもたらすために全力を尽くします。」

国連の推計によりますと、避難民の数は500万人にまで膨れ上がる可能性があり、ヨーロッパをはじめ、世界中のロータリークラブが救援活動を強化しており、中には現地で避難民の支援に当たってるクラブもあるようです。国際ロータリーは、国連難民高等弁務官事務所と連絡を取り合っており、ウクライナ国内および近隣諸国へのニーズに対応するための準備も行っています。

R I 日本事務局財団室NEWS2022年号外(3月10日発行)から一部転載します。

ロータリー財団がウクライナ地域での直接的な人道支援窓口を設置

深刻化するウクライナでの人道的危機への対応として、ロータリー財団は現在、ロータリー地区が実施している救援活動を支える資金を世界中のロータリー会員が寄付することのできる正式な窓口として、「災害救援基金」を指定しました。

ロータリー地区は未配分の地区財団活動資金(DDF)を災害救援基金に充て、ウクライナと関連する人道的補助金を支援する事ができるようになりました。

以上のことを受け、2550地区は、ウクライナに関連する避難民に対し、ロータリー財団が指定した「災害救援基金」に2万ドルを人道的寄付として拠出することを決定したことを報告します。

(2022年3月13日 ガバナー 石田順一)



国際ロータリー第2550地区 ガバナー事務所

〒321-0945 宇都宮市宿郷5-21-15 ベルヴィ宇都宮内1F

TEL:028-651-2550 FAX:028-651-2551

e-mail : m2550@agate.plala.or.jp URL : <http://www.rid2550.com/>